

令和6年度 第1回 瑞浪市中山道整備基本計画策定懇談会 会議要旨

- 日 時：令和6年11月22日（金） 13時30分から16時30分まで
- 場 所：瑞浪市役所（全員協議会室）
- 出席者：秋山晶則、澤井計宏、豊田富士人、中井正幸、臼田寿生、渡邊 俊美、加藤博一、
棚橋哲夫、荻谷 菜々子
水野義康、砂田普司、河野和弘（事務局）
株式会社イビソク（計画策定支援業務の受託業者：2名）、傍聴者（1名）あり

■内容

1. あいさつ

勝副市長あいさつ（内容は省略）

2. 出席者紹介

出席者による自己紹介（内容は省略）

3. 座長選出

出席者の互選により、秋山晶則氏を座長に選出

4. 説明事項

1) 事業概要とスケジュール

事務局より資料に基づいて説明

（意見等は特になし）

2) 史跡中山道とこれまでの整備の概要

事務局より資料に基づいて、また画像を映示して説明

- ・当該計画策定にあたっては、歴史的な景観等を優先するのか、現在の環境を維持していくのかを考える必要がある。
- ・暫定整備で設置された横断水路はすぐに詰まってしまうという問題があり、道路（路面）には猪によるとみられる掘り返しも認められ、対応が必要である。
- ・高齢化により清掃が行き届かなくなっているという現状があり、計画策定にあたってはこの点も考慮が必要である。

5. 意見・助言を求める事項

1) 基本理念、基本方針と整備対象

- ・中山道は、史跡であると同時に生活道路となるなどインフラとしての性格も有する。事務局案は史跡の保護を重視した理念と思われるが、道路の保全という視点も取り入れる

必要がある。

- ・基本方針には「道路機能の確保」の文言を入れてほしい。
- ・道路の維持等のためには法面の保護・対策等も考慮することが望ましく、当該計画を実際に機能させるためには持続可能性を考慮する必要がある。
- ・地域と連携して中山道をまもっていくという視点を取り入れてほしい。
- ・活用の際には、学校との連携・生涯学習等の活用の方向性を踏まえて整備方針を考える必要がある。
- ・学校との連携という観点からは、岐阜県教育振興基本計画等との整合性も考慮する必要がある。
- ・活用の基本方針には、VRなどデジタル技術の活用を取り入れてほしい。
- ・現在、様々なデザインの看板が乱立している状況にあり、計画策定にあたってはデザインの統一化が必要である。

2) 街道（路面）の整備手法について

事務局より【資料1】を用いて説明

- ・基本理念や方針とも関わることであるが、歴史的な景観等を復元するのか、現状維持の方向で検討していくのかを整理する必要がある。
- ・事務局からはA・B・Cの3案が示されているが、例えばBとCを融合したような手法もある。地区ごとで一つの手法を採用するのではなく、各地区内の地形や暫定整備状況等を踏まえて、よりきめ細かく手法を検討する必要がある
- ・道路というのは常に劣化していくものであり、例えばメンテナンスに学校の教育活動や生涯学習の取り組みでの協力を求めるなど、メンテナンスと活用をつなげることも考えられる。
- ・十三峠地藏坂～炭焼立場地区は山火事等の際に緊急車両が通行する場合も考えられるので、この点もふまえて整備手法を検討してほしい。

3) 一里塚の整備手法について

- ・道の両側に一里塚が残っていることも貴重であるが、それが連続して4か所も残っていることは驚きである。ぜひ、測量を実施するとともに土質調査等の科学的調査を行って一里塚研究の情報を発信してほしい。

6. その他

次回懇談会が2月18日開催であることを確認。また次回からはリモートによる参加者がある旨を説明。